

西尾市中学校駅伝大会が10月29日、吉良サンライズパーク周辺で行われま



した。東中からも女子は5人、男子は6人が、赤いタスキをつなぎドラマを生み出しました。

今年度は陸上部の長距離の部員だけでは足りず、駅伝部として、部員を兼部で募集しました。すると、野球部など他の部活動の子も若干名参加してくれました。

練習時間は合唱コンクールの練習後。みんなが帰宅する時間に30分ほど延長して、暗くなるまで走っていました。グラウンドをかける足音が心地良く響き、職員室まで届きました。教員も常時3、4名が一緒になって走りました。練習メニューはかなり厳しいもので、集団についていくのがやっとな子も何人かいました。



苦しい練習の中で、**1～3年が一つになっ**ているのがよくわかりました。走るリズムや鼓動が日ごとにそろっていきました。

練習の成果もあり、女子は県出場チームをおさえて、一時は1位で走ることもありました。男子も3位にまで上がる時もありました。**最終的には女子が4位、男子が5位**でしたが、「今回は**東部中がドラマを引き起こしてくれたね**」と大会関係者が話されるなど、順位を超えた**とても誇らしい結果**となりました。



駅伝は走っている間は誰の助けもありません。頼るものは自分自身です。声援を感じながら自分を奮い立たせて、次の子へタスキを渡すために走ります。その姿は「孤高」という言葉がぴったりするような強く気高いものを感じます。だからこそ、走り終わった後の選手の顔はどの子もいい顔をしていました。



応援ありがとうございました。